

令和元年度第4回自立支援協議会こども部会 議事要旨

1. 開催日時 令和2年1月27日(月) 午後1時30分～3時30分(非公開開催)
2. 開催場所 市役所4階 会議室S2・3
3. 出席者 (委員)*団体名のみ記載
教育研究センター、(特非)千楽、浦安手をつなぐ親の会、浦安市自閉症協会、(一社)こども未来共生会、(特非)かぷあ、(特非)ワーカーズコープ、(特非)発達わんぱく会、(特非)アリスのうさぎ、千葉県立市川特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、浦安市立小学校長会、こども課、浦安市子育てケアマネジャー(事務局)障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 第4回自立支援協議会の協議内容の報告
 - (2) 第3回こども部会の振り返り
 - (3) 事例検証
 - (4) 令和元年度こども部会の振り返りと令和2年度こども部会に向けて意見交換
 - (5) その他
3. 閉会
4. 配布資料
 - (1) 議題(1)資料1-1 第4回浦安市自立支援協議会 報告
 - (2) 議題(1)資料1-2 「福祉体験教室」について
～第4回自立支援協議会の協議内容の報告より～
 - (3) 議題(2)資料 第3回こども部会事例検証の振り返り
 - (4) 議題(3)資料 事例検証用架空事例
 - (5) 議題(4)資料 令和元年度こども部会の振り返りと令和2年度こども部会に向けて意見交換

5. 議事概要

- (1) 第4回浦安市自立支援協議会 報告

■説明(リーダー・サブリーダー・事務局)

第4回浦安市自立支援協議会で協議された内容を事務局とリーダー、サブリーダーから説明。特に、第3回権利擁護部会から挙げられた、福祉体験教室の申込数の減少について、事務局で教育委員会に実態調査を行った結果を報告し、内容について意見交換をした。

■主な意見

事：福祉教育は、障がい分野だけでなく、高齢分野やパラスポーツなど、幅広く行われていることが調査からわかった。

委：たとえば、依頼をしない学校側の理由に、既に福祉教育の積み重ねを十分してきていることや、依頼の手順が複雑で大変であるというようなことも考えられる。依頼しなかった理由を具体的に質問したほうがよかったのではないか。

委：部会から、福祉教育の内容や学習の視点、子どもたちに考えてほしいことなど提案としてもらえれば、学校現場の先生に福祉教育充実のための情報として投げかける材料になるのではないか。

(2) 第3回子ども部会の振り返り

■説明（リーダー・事務局）

資料に沿い、第3回子ども部会で行った事例検証について事務局から振り返りの説明を行った。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

委：架空の事例についての協議だとしても、障がいの名称については言い間違いに気を付けたほうがよい。障がい名は複雑化しており、少しの違いで必要な支援も変わってくる。

委：事例検証の結果を当日回収にしてしまうと、組織に持ち帰って共有することが難しくなる。

事：架空事例であるため、個人的な情報は除いていると考え、今回の事例検討の資料はお持ち帰りいただいてかまわない。各所属の機関で、報告していただく資料として活用されるのであればいいと思う。

委：事例検証の中で、地域コミュニティとの連携が挙げられていたが、障がい児が行方不明になってしまったときなど、警察に連絡するタイミングはいつなのか。高齢者が行方不明になった場合にメールで情報を流すようなシステムの担当課はどこなのか。

事：災害発生時や高齢者の方の行方不明などを知らせる、お知らせメールは希望者へその都度送信される。主たる担当課は危機管理課であるが、情報の内容によって担当課が分かれる。こどもの場合は教育委員会を通じて、ということもある。

ただし、人命にかかわることは防災無線なども活用できる。

このような事象について、今後どのような情報ネットワークが必要かなど、議論したいということであれば、次年度以降のテーマとし、引き続き検討する事項としていただければと思っている。

(3) 事例検証

■説明（サブリーダー）

架空事例概要。かずやさん 6 歳（小学 1 年生、特別支援学級、自閉症スペクトラム、療育手帳 A-1）。学校になれる様子が見られず、障がい福祉サービスで通所先の利用もない。母親は他人に相談することが苦手な性格であり、学校や相談支援事業所の相談員とも積極的な関わりを避けている。母親も家計のために就労を希望しているが、かずやさんのことが心配で、放課後や休みの日は、かずやさんにつきっきりで疲弊しており、問題を抱え込んでいる。この家庭への支援方法を協議する。

■主な意見（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

（事例検証後、各グループで挙げられた意見のまとめ）

委：保護者とのつながりがある学校の担任が、母親が疲弊している部分を面談で引き出していくとよいと思うが、育児や福祉分野に詳しくないと難しいだろう。担任を支える役割として、校内の特別支援教育のコーディネーターや管理職の教員、また、外部機関に依頼し、まなびサポートや特別支援学校の助言を受けることも大切であると思う。

また、こどもの心へのアプローチはそらいろームなどにつなげる方法もある。

家庭全体でとらえた際の支援方法はこども家庭支援センター。これまで通っていた保育園へ、通園時の様子の聞き取りをする必要など、が挙げられた。

簡単に言うと、学校を支えていく連携、家庭を支えていく連携について、福祉でできるところと教育でできるところを、分けて考え、グループの中で話し合いがなされた。

委：相談が苦手であれば、親の会に参加していただければ、同じ親としての立場でアドバイスをお伝えしたいし、つないでいきたい。

また、困りごとをどこに相談すればよいのかという悩みもあると思うので、相談受付機関を学校や市から情報提供できるとよい。親の交流を促すような事業を行っている事業所もある。

委：すでにつながっている機関から、母親への聞き取りを行い、早くから療育を受けられるようにしたほうがよい。

相談支援事業所経由で、放課後等デイサービスなど事業所見学に家族で行ってもらえるようにするとよい。

リ：特別支援学級に在籍している児童は入学前にまなびサポートに相談経緯があるかもしれない。

まなびサポートの特徴は、就学後も継続して支援を行うところ。中には、在籍学級に迷いがある方もいるので、継続的に保護者と会い支援をさせてもらうので、ぜひ相談してほしい。

また、浦安市の場合は、特別支援学級に在籍している児童は6年生まで学童保育を利用でき、福祉サービスも受けられる。このような情報を誰が伝えていくのか。まなびサポートや教員も様々な情報を知ったうえで、つないでいく役割があると思う。

リ：相談する中で、子育ての悩みが整理されたり、振り返ることができる。支援者として、まず、お母さんのそういう思いを受けとめながら一緒に考えていこうというスタンスでかかわっていきたい。そして、相談することはとても良いことだな、と思ってもらえるようになることが大事だと思う。

（4）令和元年度こども部会の振り返りと令和2年度こども部会に向けて意見交換

■説明（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

リ：令和2年度こども部会に向けて、資料配布したシートに委員の皆さんから意見を書き込んでいただき、来年度の部会の内容を考えたい。（予定では、シートに記入した意見をグループで発表予定だったが、議事進行の都合上、記入された意見は事務局でまとめ、来年の方向性を示すこととなった。）

■主な意見

特になし。

(5) その他

■説明（リーダー：リ、委員：委、事務局：事）

事務局より、令和2年2月20日の合同部会、翌日2月21日の発達障がい講演会についてお知らせ。

■主な意見

委：部会の公開について。所属団体に傍聴希望がある場合に、会議の公開・非公開について案内している。毎回の会議で、次回の会議が公開・非公開のどちらなのか教えてもらうことはできるのか、それとも事前に事務局に確認しなければならないのか。

事：会議の公開については、議事に合わせて決定している。年間の部会のスケジュールは大まかに決まっているが、詳細な内容はその都度変わるので、事務局へ公開・非公開の確認をしてほしい。